

① 研究業績

2. 論文

- ・「日本語教育史の意義と可能性：授業実践と研究リソースの構築を踏まえて」小川誉子美『大連理工大学日本学科紀要』創刊号（印刷中）
- ・「新聞が報じた日本語教育―日露戦争前後の極東ロシア―」小川誉子美『ことばと文字』第2号，日本のローマ字社編，くろしお出版，pp. 27-33, 2014
- ・「ラムステッドと日本語学者たち―フィンランド側の資料をもとに―」小川誉子美『ユーラシア都市文化叢書2 沿バルト海の都市―ヘルシンキ，サンクト・ペテルブルグ，ベルリン―』pp.3-1, 2014
- ・「漢字知識の活かし方―草創期来日外国人の漢字使用―」小川誉子美『総合学術学会誌』第13号，日本総合学術学会，pp. 3-9, 2014

3. 科研費実績

- ・研究成果公開促進費：学術図書，平成21年度，課題番号：215069  
研究課題名：『欧州における戦前の日本語講座―実態と背景』
- ・基盤研究（C）平成21年度～平成23年度，課題番号21520531【研究代表者】  
研究課題名：日本語教育史テキスト作成に向けた基礎的研究
- ・基盤研究（C）平成24年度～平成26年度，課題番号24520572【研究代表者】  
研究課題名：日本語教育史のコンテンツの再構成と資料公開に関する基礎的研究
- ・基盤研究（C）平成28年度～平成30年度，課題番号16K02806【研究代表者】  
研究課題名：現代日本語教育史研究のための情報リソースの構築―グローバルな視座の育成にむけて

4. 学会発表、他

(1) 講演（海外）

- ・ Research Sources on Language Teaching and Politics: Japanese language education in Pre-war Europe, Research and Study Possibilities in and on Japan, University of Helsinki, Finland, 2015  
(JSPS Stockholm 日本学術振興会ストックホルムオフィスによる招待)

※JSPS Stockholm Newsletter に掲載(英文・和文)

<http://www.jpsps-sto.com/admin/UploadFile.aspx?path=/UserUploadFiles/NLEnglish/EnglishNL20-1.pdf>

[http://www.jpsps-sto.com/admin/UploadFile.aspx?path=/UserUploadFiles/NLJapanese/\[final\]JapaneseNL46-150804.pdf](http://www.jpsps-sto.com/admin/UploadFile.aspx?path=/UserUploadFiles/NLJapanese/[final]JapaneseNL46-150804.pdf)

- ・「西洋人の日本語研究と中国」ほか，大連理工大学日本語学科講演会，2014（大連理工大学による招待）

(2) 学会発表（国内）

- ・「日本の技術書第一号を手掛けた訳者たち」日本総合学術学会 2016 秋季大会，東京工業大学 CIC キャンパスイノベーションセンター，2016
- ・「日本語教育史の授業実践と可能性」日本総合学術学会 2015 秋季大会，東京工業大学 CIC キャンパスイノベーションセンター，2015
- ・「ロシア・イギリスの対日政策と日本語教育―20世紀初頭の報道記事から―」日本総合学術学会 2014 秋季大会，東京工業大学 CIC キャンパスイノベーションセンター，2014
- ・「日本語研究と実用日本語講座 ―19世紀の欧州の事例から―」日本総合学術学会 2013 秋季大会，東京工業大学 CIC キャンパスイノベーションセンター，2013
- ・「ラムステッドと研究交流―泉井久之助らを中心に―」村山七郎記念日本言語研究会，長岡京市中央生涯学習センター，2013

(3) 教科書作成

- ・『新界標日本語 第一冊』復旦大学出版社，華東師範大学，2013（共）
- ・『新界標日本語 第二冊』復旦大学出版社，華東師範大学，2014（共）

## ②社会活動

- ・ 日本総合学会理事 2000年～現在に至る
- ・ 日本語教育学会大会委員 2007年6月～2011年5月
- ・ 科学研究費委員会専門委員（日本学術振興会）2010年6月～10月，2011年6～10月
- ・ 日本ウラル学会理事 2010年6月～現在に至る
- ・ 日本語教育学会研究集会委員 2011年6月～2015年7月
- ・ 日本語教育史研究会副会長 2013年～現在に至る
- ・ 日本総合学会学会誌編集委員長 2015年～現在に至る

## ③学内活動

- ・ 教員活動タスクフォースほか。